



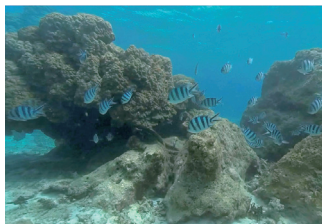
《将来に向けた取組方針》

海洋機器によるモニタリング 海を取り巻く環境は、日々変化している。その中で、太陽光と一定の海水温が生息条件である珊瑚は、亜熱帯の沖縄に約380種生息し、珊瑚の地球北限生息域である館山湾では約30種が確認されている。近年、地球温暖化の影響により世界各地で珊瑚の種類が増え、まさに珊瑚は海の状態を示すバロメーターとなっている。残念ながら、1990年代から世界各地でサンゴ礁の白化現象が散見されることから、今後、珊瑚から海の状態を把握するためにも、子会社・コスモス商事が海洋機器によるモニタリングを進めていく。

〈具体的取組み事例〉

サンゴ生態調査（沖縄県恩納村）

サンゴの養殖場もある恩納村沿岸でのBoxfish360カメラ（水中360°カメラ）による海底撮影の様子。クマノミやロクセンズメダイの群れにも遭遇。



Boxfish 360カメラ
(Boxfish Research製)

- ・ 恩納村沖の珊瑚礁及び養殖珊瑚の生態系分布
- ・ 珊瑚の白化状況について把握

〈今後の課題等〉

海のマイクロプラスチックが珊瑚の体内に残ることが確認されている。今後、この問題が珊瑚の生態系そして地球温暖化に及ぼす影響を検証していく。

〈社会に向けたメッセージ〉

我が国の豊かな海洋生態系を次世代に引き継ぐため、海洋機器を通じ、海の状態の把握に貢献していく。